

平成9年(1999年)6月1日発行

第一回「歴史的価値のある 工作機械」四点に決まる!!

工業技術博物館長——鈴木 昭教授

既報したとおり「歴史的価値のある工作機械を顕彰する会」では昨年九月十六日から十月十七日にかけて、ロングライフ・ベストセラ賞とベストテクニカル賞に値すると思われる顕彰機械の推薦応募を、関係者は勿論のこと一般からのものも受付けた。

応募総数は六十機種であった。しかし、一つの機械を両賞にダブルで応募していたり、暖昧なものもあったので、これらを主催者側で整理したところ合計五十三機種となった。

既報したとおり「歴史的価値のある工作機械を顕彰する会」では昨年九月十六日から十月十七日にかけて、ロングライフ・ベストセラ賞とベストテクニカル賞に値すると思われる顕彰機械の推薦応募を、関係者は勿論のこと一般からのものも受付けた。

池貝のD型旋盤はドイツのVDF旋盤をモデルに昭和十年に国産化されたもので、当時の軍の多様な要求に対処するためユニット構成とし、多品種量産体制も実現し、戦後の近代工作機械の基礎となり、昭和三十一年まで製造され、戦後の日本機械工業の発展に著しく貢献している。戦時中の生産台数は不明であるが相当の数が生産されたものと考えられる。戦後は百六十台生産されている。

日立精機の4T型タレット旋盤は昭和十四年から生産されたもので、当時としては初めてのビルトインモーターを採用し、そのモーターも極数変換式であり、更にギヤ・ミッションと組合わ

せて、幅の広い速度範囲を実現し、最適な切削速度の選択がダイヤル式で選択できた。主軸には複列円筒コ口軸受を採用し主軸の高速化、高精度化を図るなど、また、多刃同時加工による大幅な能率向上を実現した。昭和三十一年までの十九年間に千九百台生産され、戦後の産業界の急速な復興に貢献している。なお、T型シリーズとしては2、3、4、5型があり、それらは昭和十二年から同三十九年

には船用タービンが使われていてその減速歯車の切削にはこれらの大型歯車ホブ盤が必要であったように、造船をはじめ機械工業の発展に寄与した。したがって、親歯車ホブ盤の開発再開は是非とも必要なことであつた。

三井精機のジグ中ぐり盤は昭和十年からスイスのシッパ社の機械をモデルに試作が始まり、同十三年に4型機の一号機が完成した。また、総動員試験研究令により開発を行っていた大型の6型機の一号機も同十七年に完成して、商工大臣賞を受けている。

これらジグ中ぐり盤の国産化により、それまで全面的に外国に依存していた高精度工作機械の一部を補充するとともに、日本の精密機械工業の水準を高めた。

終戦まで4型機が二百二十台また、6型機が百台生産された。また、戦後は昭和三十一年から3型光学式ジグ中ぐり盤の販売を開始した。これら機械の国産化により、わが国精密機械工業を世界水準に比肩できるものにした功績は大なるものがある。

このように受賞四機種を個々にみてみると、その総てがベストテクニカル賞に相当すると思われるが、D型旋盤とタレット旋盤をあえてロングライフ・ベストセラ賞とした。その理由は生産された台数が親歯車ホブ盤やジグ中ぐり盤に比べると桁違いに大きいからであつた。

なお、この四機種の表彰式は五月二十五日に学友会

五月十三日から十五日の日程で、平成十一年度塑性加工春季講演会が、延べ参加者、約千五百人を得て本学にて盛大に開催された。

会場は、第一会場から第七会場に分かれ、注目の技術開発賞、会田技術賞、三井精密技術賞などの受賞記念講演をはじめ、諸分野の多くの研究の取り組みが披露された。

また特別講演は、①東武動物公園の西山登志雄園長の「動物に学ぼう」②柳澤章教授の「産学協同：日本

会場は、第一会場から第七会場に分かれ、注目の技術開発賞、会田技術賞、三井精密技術賞などの受賞記念講演をはじめ、諸分野の多くの研究の取り組みが披露された。

また特別講演は、①東武動物公園の西山登志雄園長の「動物に学ぼう」②柳澤章教授の「産学協同：日本

会場は、第一会場から第七会場に分かれ、注目の技術開発賞、会田技術賞、三井精密技術賞などの受賞記念講演をはじめ、諸分野の多くの研究の取り組みが披露された。

また特別講演は、①東武動物公園の西山登志雄園長の「動物に学ぼう」②柳澤章教授の「産学協同：日本

会場は、第一会場から第七会場に分かれ、注目の技術開発賞、会田技術賞、三井精密技術賞などの受賞記念講演をはじめ、諸分野の多くの研究の取り組みが披露された。



記者会見で結果を発表する大和田会長

大和田会長は、記者会見で結果を発表した。受賞した四機種は、親歯車ホブ盤と三井精機工業(株)の4型ジグ中ぐり盤の二機種の計四機種を顕彰することを決定した。

候補機械の募集に際しては各賞とも一機種を顕賞することになっていたが、決定した四機種をそれぞれ比

較した場合、殆ど差が無いのでいずれも選外することとが非常に難しいこと、今回は第一回目であると言ふことから特例として各賞二機種の顕賞とした。なお、審査委員会の決定と推薦委員会での順位付とは必ずしも一致していない。

池貝のD型旋盤はドイツのVDF旋盤をモデルに昭和十年に国産化されたもので、当時の軍の多様な要求に対処するためユニット構成とし、多品種量産体制も実現し、戦後の近代工作機械の基礎となり、昭和三十一年まで製造され、戦後の日本機械工業の発展に著しく貢献している。戦時中の生産台数は不明であるが相当の数が生産されたものと考えられる。戦後は百六十台生産されている。

日立精機の4T型タレット旋盤は昭和十四年から生産されたもので、当時としては初めてのビルトインモーターを採用し、そのモーターも極数変換式であり、更にギヤ・ミッションと組合わ

せて、幅の広い速度範囲を実現し、最適な切削速度の選択がダイヤル式で選択できた。主軸には複列円筒コ口軸受を採用し主軸の高速化、高精度化を図るなど、また、多刃同時加工による大幅な能率向上を実現した。昭和三十一年までの十九年間に千九百台生産され、戦後の産業界の急速な復興に貢献している。なお、T型シリーズとしては2、3、4、5型があり、それらは昭和十二年から同三十九年

には船用タービンが使われていてその減速歯車の切削にはこれらの大型歯車ホブ盤が必要であったように、造船をはじめ機械工業の発展に寄与した。したがって、親歯車ホブ盤の開発再開は是非とも必要なことであつた。

三井精機のジグ中ぐり盤は昭和十年からスイスのシッパ社の機械をモデルに試作が始まり、同十三年に4型機の一号機が完成した。また、総動員試験研究令により開発を行っていた大型の6型機の一号機も同十七年に完成して、商工大臣賞を受けている。

これらジグ中ぐり盤の国産化により、それまで全面的に外国に依存していた高精度工作機械の一部を補充するとともに、日本の精密機械工業の水準を高めた。

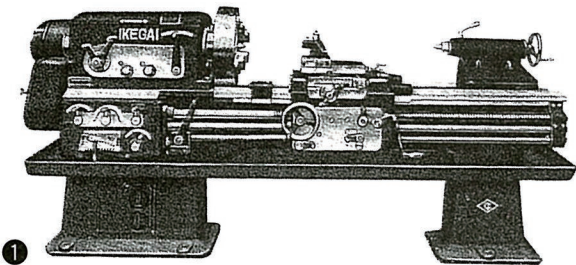
終戦まで4型機が二百二十台また、6型機が百台生産された。また、戦後は昭和三十一年から3型光学式ジグ中ぐり盤の販売を開始した。これら機械の国産化により、わが国精密機械工業を世界水準に比肩できるものにした功績は大なるものがある。

このように受賞四機種を個々にみてみると、その総てがベストテクニカル賞に相当すると思われるが、D型旋盤とタレット旋盤をあえてロングライフ・ベストセラ賞とした。その理由は生産された台数が親歯車ホブ盤やジグ中ぐり盤に比べると桁違いに大きいからであつた。

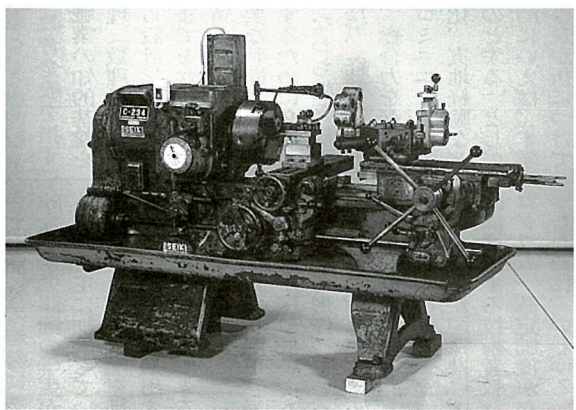
なお、この四機種の表彰式は五月二十五日に学友会

特報!! ベルギー王国の フィリップ皇太子殿下 六月四日来学!!

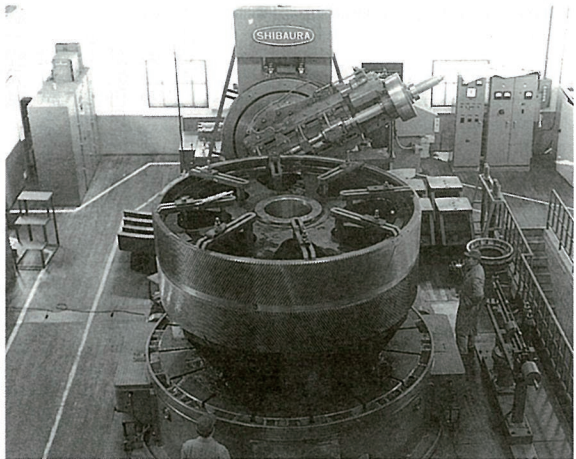
この六月四日(金)、ベルギー王国のフィリップ皇太子殿下が来学される。目的は一昨年、同国の世界的鋼線メーカー・ベカルト社と本学とで学内に協同設立した「ベキニット社」の親善訪問。かたわら本学の誇る工業技術博物館などの見学も予定されている。関係者一同、挙げて温もりのあるマナーで迎えたい。



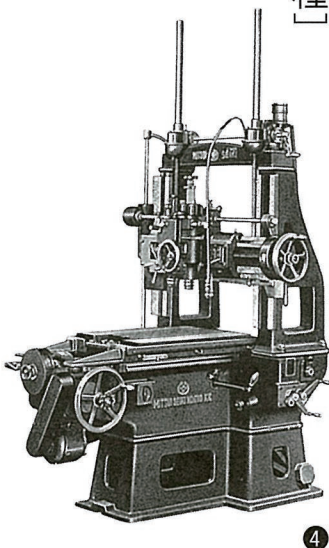
1



2



3

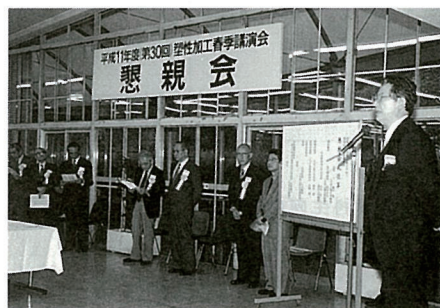


4

「歴史的価値のある工作機械 顕彰機種」

- ◆ロングライフ・ベストセラ賞
- 1 株式会社池貝/D型標準旋盤D20型
- 2 日立精機株式会社/ラム型タレット旋盤4T型(2T、3T、4T、5T)
- ◆ベストテクニカル賞
- 3 東芝機械株式会社/親歯車ホブ盤HRS-500型
- 4 三井精機工業株式会社/ジグ中ぐり盤4型(4、6)

平成11年度 塑性加工春季講演会 本学で盛大に開催



工業大学の試み……が行われ、前者は、あのユーモアゆたかな話しぶり。また後者は、昨今注目のベンチャーへの期待もあつてか、学友会館ホールに、ほぼ満席の聴衆を集めた。さらに参加者の関心と呼んだのが、開設されたばかりの先端材料技術研

会場は、第一会場から第七会場に分かれ、注目の技術開発賞、会田技術賞、三井精密技術賞などの受賞記念講演をはじめ、諸分野の多くの研究の取り組みが披露された。

また特別講演は、①東武動物公園の西山登志雄園長の「動物に学ぼう」②柳澤章教授の「産学協同：日本



特別講演の西山登志雄氏

共通系の伊藤隆教授が 育英資金三百万円寄贈

本学育英事業は、昭和四十九年より多くの方々のご協力により推移してまいりましたが、このたび、特に成績の秀でた学生や育英事業の基金として三百万円を寄付していただきました。

伊藤教授の篤志に対し、厚く御礼を申し上げる次第であります。

「日本技術者教育認定制度」が確立の運び!!

教養教育・総合力を養う設計教育なども視野に

このところ「理工系学部の実力」点検……技術者育成で初の認定制度（東京新聞四月九日付）／「世界に通用する人材育て……技術者育成に認定制度」朝日新聞四月二十日付）という大見出しが注意をひく。いわゆる日本版プロフェッショナル・エンジニア（P.E）制度導入の動きだが、本機構を推進する社団法人工学教育協会の専務理事・原田耕作さんに、その内実をうかがった。



原田耕作専務理事

注目の「日本技術者教育認定機構」(Japan Accreditation Board of Engineering Education)以下、JABEEと略)制度づくりの端緒は、九六年七月、大橋秀雄氏(工学院大学長)を委員長とする工学教育・アクレディテーション調査委員会の発足。

のちに文部省、科学技術庁、通商産業省などの政府機関ならびに経済団体連合

会をはじめとする産業界の支援を得て検討が重ねられ、この四月三十日、工学系高等教育機関の関係者等を対象とした総会で設立準備室の設置を承認、具体化のはこびとなった。

参考までに「アクレディテーション」とは、一九三二年、米国の専門職として適切な業績を上げ得るエンジニアリング系学生を卒業させる目的で設立され、後

に組織変更、現在はABET (エーベット=Accreditation Board for Engineering and Technology)と称する団体の定義(社団法人工学教育協会の資料によれば、「大学の自主的な申請に基づいて、エンジニアリングプログラムの質を確実に保証する媒体の働きをするものであり、一定の基準」と「手順」により大学のエンジニアリングプログラムを評価し、基準に合致しているか、或いはそれ以上であるという結果が得れば認可されたとして証明を与えるシステム」(傍点、引用者をいう。では、ここでいう「エンジニアリングプログラム」とは、具体的には如何なる内容を指すのか。この点に

関して、日本工学教育協会との原田専務理事は、こう解き明かす。

「誤解のないよう指摘しておきますが、JABEEがいう『教育プログラム』とは、単なる学科のカリキュラムのことではありません。カリキュラムのみならず、入学者の選抜方法、施設、自己点検システム、修了資格など、いわば入学から卒業までの全教育プロセスを含み込んでおり、それを評価・認定しようというのが趣旨。言い換えればプロフェッショナル・アクレディテーション、つまり専門認定であり、従来が国にはこの種の認定は存在しなかったわけです」。

周知のように、既存の大学課程による自己点検、大学設置・学校法人審議会による設置認可、大学基準協会の加盟審査・相互評価、さらに大学審議会の答申に基づいて将来設置が検討されている第三者機関による審査等は、いずれも大学・学部・学科などの教育機関としての評価を行うものである。したがって、「教育の学問的内容に関わる専門教育プログラムの評価は行わない」という意味で、異質なものの(原田氏)である。

また技術者教育に関しては、「技術者教育」という専門職業に関わる教育全般を指す。従って、職業の知的基盤を形作る学理(数理学、自然科学から設計学のような人工科学までを含む)を学習するに留まらず、技術者として必要な判断力と実行力を強化するために必要な教育、すなわち教養教育(社会、経済、経営を含む)、倫理教育、総合力を養う設計教育、コミュニケーション力の強化、実地経験などの評価は、高等教育機関の自由意志に基づいて実施される。

注意すべきは、《技術者教育》および《技術者教育》の用語概念である。

まず、ここでいう技術者とは、「数理学、自然科学および人工科学の知識を駆使し、社会や環境に対する影響を予見しながら資源と自然力を経済的に活用し、人類の利益と安全に貢献するハード・ソフトの人工物システムを研究・開発・製造・運用・維持する専門職業」と規定する。

PEの用語概念に関して

JABEEでは、プロフェッショナル エンジニアの概念を、以下の例などを参照している

◆米国のプロフェッショナル エンジニア (PE) は、州法で管理されその内容は州によって多少異なる。例えばカリフォルニア州ではABETにより認可された4年制大学のエンジニアリングプログラムにより習得した数学、基礎科学、エンジニアリングサイエンスの知識と高度な実務経験の応用を必要とする専門業務の提供者、又は創造的役務の従事者であるとし、更にエンジニアリングプロジェクトに関する調査或いはデザインに対して、独自の考え、知識及び判断により管理指導又は直接的な技術監督を行う責務を負うことを規定しているが、財務的な責任は含まれていない。

◆英国プロフェッショナル エンジニアの中の最上位であるChartered Engineer(CEng)は、新しいテクノロジーを開発適用し、優れたデザインとデザイン方法を助長し、一層効率的な生産技術と市場開拓と建設的概念を導入、そして新しいエンジニアリングの役務と管理方法を開拓し、更に危険率の高いプロジェクトの管理監督に携わる者と定義されている。

さて、以上のことがらを前提として、制度の骨子に目を転じると、以下の五になる。

(一)実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定 (Professional Accreditation) を実施。その内容を和文と英文で公表。

(二)認定された教育プロ

ラムの修了者は、技術業(Engineering)に就くために、専門分野の教育のみならず、効果的なコミュニケーション能力や技術者倫理を含めた人文社会科学等の必要不可欠な教育を受けていることを保証。

(三)高等教育機関の個性や伝統、使命に応じた多様な教育プログラムの開発を促進。

(四)技術者教育の国際的相互承認問題に対応。

(五)技術者教育プログラムの評価は、高等教育機関の自由意志に基づいて実施される。

注意すべきは、《技術者教育》および《技術者教育》の用語概念である。

まず、ここでいう技術者とは、「数理学、自然科学および人工科学の知識を駆使し、社会や環境に対する影響を予見しながら資源と自然力を経済的に活用し、人類の利益と安全に貢献するハード・ソフトの人工物システムを研究・開発・製造・運用・維持する専門職業」と規定する。

認定制度の趣旨

一般入試A方式は普通科生向けに問題を構成

平成十二年度入試概要決まる

平成十二年度入試概要は別表の通りである。推薦入試方式に大きな変更点はないが、一般入試方式にかなり変更があった。

●推薦A方式Ⅱ指定校制

推薦A方式はいわゆる「指定校制」である。予め定められた指定推薦校に基づいて高校から推薦された志願者を受入れる。指定校は、毎年二つのやり方で見直しがされる。ひとつは、A方式入学者の入学後一年間の成績を調査し、該当者の成績が基準点に達しない場合には指定校が削減される。もうひとつが、後に述べる推薦B方式の入学者数実績と入学者の成績により、その者の出身高校に指定校が新・増設されるというものである。

●推薦B方式(面接)

推薦B方式は成績概評3・5以上で、なんらかの特長特技を有し、大学での

を寄せているものである。

●一般入試

一般入試A方式は普通科生向けに問題を構成している。試験科目は、数学、理科、英語の三科目のなかから任意の二科目選択とした。

出題範囲は別表中に表記してあるが、これも昨年度に比べるとかなり限定的な内容になっている。

試験日は二月十二日、十三日、十四日の三日間とも全学科の試験を行う「受験日自由選択制」を採用した。一般入試B方式は工業高校生向けに試験科目を配している。試験科目は数学と専門。数学は筆記試験、専門試験には今年度、口頭試験(筆答試験を含む)を採用した。口頭試験に、実

日本工業大学 平成12年度入試概要

入試内容		出願資格	選考方法	選 考 基 準	日 程	
推薦A方式	・指定校／指定学科制推薦 ・単願	・指定校推薦枠に基づいて学校長の推薦を受けた者 ・成績概評3.5以上 ・平成12年3月卒業見込者	※入学後1年次の成績の良否が次年度の指定枠に影響を及ぼすので、指定校推薦入学者は自覚を持ち学業に取り組むことが必要。		出願期間 10/1~7	10/16
					合格発表 11/5	11/18
推薦B方式	・工業高校生に限った公募制推薦 ・併願可能	・学校長推薦 ・成績概評3.5以上 ・平成11年3月卒業生および平成12年3月卒業見込者 ・推薦可能学科の在籍者	書類審査 面接	・基礎学力 調査書、口頭試問 ・特長・特技 資格、コンクール受賞歴、生徒会活動 クラブ活動、ボランティア等 ・自己表現力 プレゼンテーション、 志望動機、将来の希望	第1回募集 出願期間 ※10/8まで 9/6~9/30 10/1 10/2 10/4 10/5 10/6 10/7 10/8 10/9 10/16 合格発表 11/5	第2回募集 12/1~9 12/11(大学) 12/18 12/24 1/18
一般入試A方式	普通科生向けの問題	数学(100点) 理科(100点) 英語(100点)	出題範囲 数学I、II、数A(「数と式」のみ) 物理IB、ただし「電気と原子」を除く 英語I、II、リーディング		出願期間 1/11~2/4	試験日 2/12 2/13 2/14 2/19 2/25
	工業科生向けの問題	数学(100点) 専門(200点)	数学I 志望学科の専門関連科目から出題		出願期間 1/11~2/4	試験日 2/12 2/13 2/14 2/19 2/25

※内容については募集要項でご確認下さい。

'99体育祭 みんな輪になって…



鮮やかな学科の旗に囲まれての宣誓



準備に勤しむ裏方さん



なかなか食いつけないや！

風薫る日本晴れの中、今年で三十二回目の体育祭が、五月十四日に開催された。競技は、「百メートル走」「玉入れ」といったオールラウンドな競技から、「どんぶらこ」「大玉のかご」など学生が知恵を絞った新種まで、全部で十六種。会場の学生たちに、感謝！



ゲームに自信なさそうな顔も



まずは準備体操から



馬飛びも元氣よく



学科対抗の優勝杯も飾られて



クラブ行進に出発のバレーボール部



楽しみに観戦中の留学生別科の諸君



久しぶりに童心にかえって

経済的な理由から全日制の高校はあきらめ、県立の神戸工業高校の定時制へと進学した。朝九時から夕方五時までは仕事をし、五時半から九時半までが学校の授業である。

日中の仕事は「大工」。コ

ものである。いくら「まじ

にもはつきりと感じるところ

に元気があふれているのか

だが、震災が林君に与えたものは、破壊と虚脱感ばかりではない。あまりに簡単に倒壊する多くの建物を

見て、彼はそれまで漠然としていた「建築を学ぼう」という気持ちを、強固な決意へと変えていったのだ

変役に立った。自発的な勉強であるその設計製図は、夜九時半に授

業が終了してから学校に残るわけにはいかない。館野先生は、いつでも、何時までも、嫌がることなく学校に残り、彼を指導してくれた。高校三年生のときは「熱

血」に燃え、先生に若くして

平成七年の大震災は、神戸の人たちから多くのものを奪い去った。建築学科の新人林、林真一郎君の場合には、自宅の全壊、親友の死、そしてその後の一年半にわたる避難生活が震災によってもたらされた。

この喜びを心底から感じていたからだろう。

この喜びは、本学OBでもある神戸工業の館野先生に全面的に支えられて得た

野先生の言葉が信じられなかったという。

その後、翌年の「建築設計競技」に佳作で入選。さらには「これは大学入学後に館野先生からの電話で知ったことだが、定時制生なんです」と、冷やか

STUDENT FACE '99



林真一郎君
(建築学科1年)

■定時制工高時の作業を基礎に

となる、木製のパネルの作製がその内容である。素人目にはすべて同じように見えるパネルだが、実際には一枚ずつ柱や壁の形状に合わせた精度で作らねばなら

ハードワークに最後までつきあうのは並大抵の熱意で

その後も翌年の「建築設計競技」に佳作で入選。さらには「これは大学入学後に館野先生からの電話で知ったことだが、定時制生なんです」と、冷やか

野先生の言葉が信じられなかったという。

情報工学科では、表彰制度を設けて学生の学習意欲を刺激する試みをしている。一年次の「プログラム言語・演習」の最終課題の優秀作品に対して、9種類の賞を用意。昨年は小暮幸子「宇宙遊泳風アクリウム」と橋本信也「謹賀新年」が最優秀賞に選ばれた。

三年次は、「情報工学実験」で全員が作製するインテリジェント型ロボットに対して十種類程度の賞を出す。昨年は、大橋・福田・細井・宮島チームの「ミゼット」が圧勝した。優秀作品

は2年間情報工学科の3、4階のフロアに展示され、他の作品は解体され部材が最利用される。

四年次は各研究室の優秀卒業研究を一件選び、表彰する。

また、難易度の高い資格取得や外部コンクールでの入賞実績も学生からの申し出を待って、表彰している。この春は情報処理技術者試験1種を取得した2名の学生を表彰した。

情報工学科の表彰制度

ががんばって賞を取得しよう!!

下田寮の梅雨どきは静かだ。六月いっぱい下田公園(城址)では「あじさい祭り」が行われるので、あの清楚な花影を思う存分楽しめよう。

静岡県の東南部、伊豆半島の南端にあるこの地は、下田港を中心に発達した所で、伊豆急行の終点。港は東西海上交通の要港で、江戸時代には下田奉行が置かれ、一八五四年開港後、米総領事ハ

リスがビュースケンとともに市内玉泉寺に滞在し、日米外交の舞台となった。従って、幕末の歴史の旅に、事欠かない。

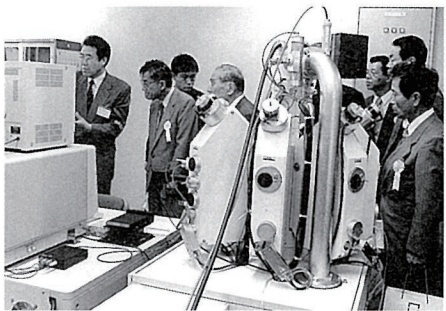
「あじさい祭」と
海景の楽しみ

また運がよければ、七月の梅雨の合間の好天時に、海水浴もできよう。

また運がよければ、七月の梅雨の合間の好天時に、海水浴もできよう。

また運がよければ、七月の梅雨の合間の好天時に、海水浴もできよう。

先端材料技術センターを 他大学や企業関係者に披露!!



設備を見学する招待者たち

本紙面においても数回に亘りご報告してきた「先端材料技術研究センター」の披露式が、四月二十一日（水）十三時より、学友会館のホールで挙行された。

本センターは、平成十年度文部省ハイテク・リサーチ・センター整備事業に採択され、平成十年九月より建設整備が進められ、平成十一年三月二十九日（月）に竣工式が行われ、

式には、大川理事長の挨拶に始まり、来賓の文部省高等教育局私学部私学助成課安田 伸課長補佐、東京工業大学 吉川昌範名誉教授より祝辞をいただいた。

続いて、先端材料技術研究センター長である村川正夫教授より研究計画①「スーパーカーボンの形成と基本特性評価②スーパーカーボンの加工と応用、及び施設の概要説明があった。

近事片々

日本工業大学第五期生として昭和五十年電気工学科を卒業しました。年月が経つのは早いもので、あつという間の二十四年間でした。

その当時、私たちが入学するのと同様、最初の第一期生が卒業された時期でもあり、本大学も新しく教育環境、設備など、まだまだ十分ではありませんでした。しかしながら、よい大学にしたいという大先輩の熱意や情熱が、ひしひしと感じられました。このことで、一つ印象に残っているエピソードがあります。ある教授の初めての授業の冒頭で、「君たちが例え理解できなくても、私は教えるレベルを下げるつもりはありませんので、そのつもりで頑張ってください」と言われたことでした。その当時、これは大変なことになったなと思います。今考えてみると、有り難く、良い刺激となつていました。

OB便り



平成9年に信州大学より工学博士の学位
御子柴 孝
電気工学科（第5期生）
（株）マコメ研究所研究部長

へ行った価値があったと思っています。大学時代には専門科目の先生は元より、教養科目の先生など色々とお世話になりました。その中でも、電気工学科の神谷六郎先生には大変お世話になりました。四年生のゼミの担当教授でもあり、また、先生の紹介

の能力が発揮できる小さな会社で働きたいと思っていましたので、願ったり叶ったりでした。当社は磁気センサーを応用した、産業用機械向けの計測、制御用製品を製造販売している多品種少量生産メーカーで、他社の真似ではなく当社独自のユニークな製品を提供する

学が行われた。実験室には、研究に必要な高度な装置が、所狭しと設置されており、深い興味と関心が寄せられていた。

約三十分の見学を終え、一同は再び学友会館に会し、十四時三十分より記念祝賀会が執り行われた。

教育研究用ソフトウェア補助金が決定!!

平成十年度私立大学等経常費補助金特別補助（情報化推進特別経費）「教育研究用ソフトウェア」による補助金額が、下記のように決定した。

マイクロナビビューションシステム用ソフトウェア（機械工学科中里講師担当）

当・申請金額六八五、六五〇円）など申請件数十二件申請総額三八、九一三、三五〇円に対し、補助額は一九、四一〇、〇〇〇円であった。補助率は、約五〇%となっている。

博士号取得者

川村清志（建築学科助教）

平成十一年三月三十一日、東京工業大学より「視覚的観点からのたばこの煙による壁面上材料の汚れの相対的評価方法に関する研究」で博士（工学）の学位授与。



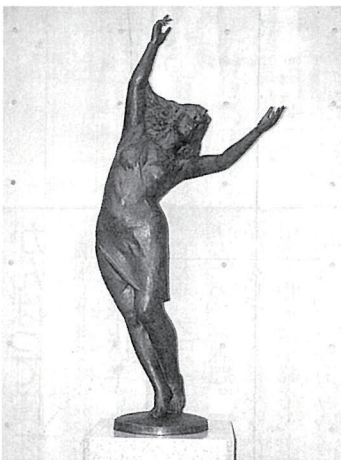
渡辺高幸（機械工学科講師）

平成十一年二月五日、東京電機大学より、「放電式翼端すきま測定法の研究」で博士（工学）の学位を授与。ガスタービン機の圧縮機やタービンの翼端すきまは効率に大きく影響するが、本論文ではこの一測定法である放電式について、その特性と高度化について考究した。



菅原邦生（本学大学院工学研究科博士後期課程建築学専攻修了）

SC内に彫像寄贈される



スクーデント・セクター内に「prima-vega」と題する彫像が、お目見えした。寄贈者は、後援会の長野・群馬・栃木・近畿・北陸支部の方々。作者は、入り口脇に据えられている彫像と同じ本多正直さんで、優れた彫像の多い学内に、また清楚なアート作品が加わった。上記の後援会にお礼を申し述べたい。

平成十一年度後援会総会 学友会館にて盛大に開催



平成十年三月三十一日、本学より「雁木通りの形成と衰退に関する研究」により博士（工学）を授与。同論文は雪国の歩行者用の通路である雁木通りの形成と衰退を論じた。

去る五月二十三日（日）午後一時より、大学学友会館ホールにて平成十一年度後援会定期総会が開催された。理事・監事並びに後援会長の挨拶の後、辻等副会長を議長に選出して進行した。

第一号議案「平成十一年度事業報告」、第二号議案「平成十一年度決算報告・同監査報告」、第三号議案「平成十一年度事業計画」、第四号議案「平成十一年度予算」第一号議案「理事・監事の総論」は、慎重審議の上、全て承認され、総会は滞りなく学内見学も行われた。

国外出張

◆渡辺 勝彦教授（建築学科）
出張先「カンボジア（4/6-4/14）目的「ユネスコによるアンコールワット修復の評価」

◆飯倉 道雄助教授（システム工学科）
出張先「オランダ（4/10-4/17）目的「High Performance Computing」

TOWN & CAMPUS 講座を通じて 交流を推進...

先頃発行された平成十年度の学生生活実態調査報告書をひもとくまでもなく、本学学生のおよそ半数はこの宮代町隣接する杉戸町に自宅外生として居住している。

この欄では、学生たちがお世話になっているこの地域との種々の交流について紹介されてきたが、いずれにしても、地域に密着した開かれた大学として、地域に根付くことが肝要で、本学生涯学習センターでの公開講座もその交流のひとつになっている。

名地域の住民の方々が受講者として週一回、大学内での講座を楽しんでいる。

気候のよいときなど、

本学の公開講座は、平成二年より陶芸や英会話の講座からスタートし、現在では年三期、各十六年、受講者の中から埼玉県の県展などの受賞者や入選者も出た。

また、センターではコンサートの開催や、SL講座、宮代町の寿大学への講師の派遣も行っているが、いずれにしてもまだ十分でなく、講座を通じて地域の方々に喜ばれる施設の開放は、今後さらに充実させたいと思うところである。

編集後記

来たる六月四日（金）に、ベルギー王国のフィリップ皇太子殿下が来学します。来学の目的は、本学にあるベルギーのベカルト社と本学の合併企業であるベキニット（株）の工場視察ですが、またとない光栄に本学としては精一杯の歓迎をしたいと考えています。尚、当日の様については、次号にて詳しくご報告しますので、お楽しみに！

▼本紙面においても逐次ご報告していましたが、平成十年度文部省ハイテク・リサーチ・センター整備事業に採択され、平成十年九月より建設整備を進めてきた「先端材料技術研究センター」の披露式が四月二十一日（水）に行われました。学友会館ホールを会場に、約八十名の招待者が列席し、盛会のうちに終了しました。同センターには、国内はもちろん海外からも深い関心が寄せられており、その期待と栄誉に恥じないよう研究の成果をあげていきたいと思ひます。

（E）